学費値上げ阻止、大学民主化、安保廃棄、沖縄全面返還めざし、

10・21東大安田講堂前に結集せよ

政府・文部省を 壮大な怒りのデモで包囲せよ

一九七〇年十月十五日

全日本学生自治会総連合
東京都学生自治会連合

わき起る闘争を十・二一へ

全都の学友諸君！

歴史的な一〇・二一第一波全国学生統一行動は六日後に迫った。

東経大、立命館大、信州大をはじめ全国五大学十七自治会がストライキ権を確立し、更に、十九日以後全国各大学で学生大会が開催されストライキ権が確立されんとしている。

教育大、拓殖大、東大、早大など全都各大学の闘いも大きく発展してきている。

いまこそ、全都全国のたたかいを一つに合流させ、一〇・二一を突破口とする全国闘争の展望をきりひらこうではないか。

あの歴史的な六月二十三日、百二十二大学二六八自治会の統一ストライキ闘争をたたかった、日本学生運動と首都の学生運動の勇姿を再び登場させようではないか。

学友諸君！

忘れることのできない一九四三年十月二十一日、幾多の先輩が強いられた屈辱の歴史。「学徒出陣」にさきだち「出陣学徒壮行会」が行なわれ、学園をおわれ戦場に送られていった。われわれは、二度と再びくりかえさせるわけにはいかない。

だからこそ、全学連と全国の学友は、一九六六年十月二十一日、総評のよびかけでたたかわれた、アメリカのベトナム侵略に反対する国際的な統一行動の先頭にたってたたかいぬいた。一〇・二一は、戦争と侵略に反対し、インドシナ人民を支援する全国学友の輝しいたたかいの「記念日」となった。

更に一九六八年十月二十一日。東大、日大闘争を中心とする全国大学民主化闘争を一つに合流させ、一万五千学友の文部省前坐りこみをもって、反動的で貧困な文教政策粉砕にむけ、大きく決起して以来、大学民主化闘争を全国的に連帯して決起する日ともなった。

全都の学友諸君！

七十年代初頭の十・二一を目前に、「再び侵略の銃はとらない」という決意をあらためて、確認しようではないか。

一九六八年十月二十一日文部省前

総力をあげて、国公私立大学学費値上げを阻止せよ

全都の学友諸君！

私立大学学費値上げ阻止にむけ、東経大、東京農大工学院大など全都五十数校でストライキを含む大闘争が展開されている。国立音大では、十月十四日、値上げ白紙撤回をかちとった。上智大、京都の同志社女子大では、学費値上げを事前に阻止した。

また、国立大学学費値上げの動きに対し、一橋大前期、東大農学部のストライキ決定をはじめ、全国四十四自治会委員長アピールに応え、急速に戦列が強化され、たたかいが開始された。

しかし、私立大学連盟、私立大学協会などは、一斉私大学費値上げを決定し、立教大、日本女子大、中大で値上げが理事会で決定され、全都六十をこえる大学で強行されようとしている。また、八月二十四日、自民党文教部会での国立大学学費値上げの意向が発表されて以后、文部省と大蔵省の間で、値上げの大筋は一致したと伝えられている。

こうして今、国公私立大学学費値上げ阻止の大闘争に総力をあげて起ちあがることが、当面する最大の課題として提起されてきた。

学費値上げを許すならば、学生々活のより一層の破壊をもたらし、教育の機会均等等を奪い、政府、文部省の文教政策を貫徹させるものとなる。

われわれは、学費値上げ阻止闘争にもてる力量のすべてを発揮してたたかうなかで、大学民主化闘争の突破口をきりひらき、全国民的な諸物価値上げ反対闘争の典型をうみだきなければならない。

一九四八年、全学連を生みだした、全国一二〇余大学の学費値上げ阻止統一ストライキ闘争を上回る大闘争で、何んとしても学費値上げを阻止しなければならない。そして、貧困な勉学生活条件を改善し、大学民主化を達成するためにも、教育予算大幅増額、私学国庫助成を断固としてかちとっていこうではないか。

全国的に連帯した闘争の中で、全国学生の代表である全学連と文部省の交渉権を奪還しようではないか。

全国大学民主化闘争をおしすすめ、政府―独占資本の反動的大学再編を粉砕せよ

首都東京の学友諸君！

教育大、拓殖大、早大はじめとする首都の学友のたたかいは、全国の学友を限りなくはげまし、今、全国的な大学民主化闘争の高揚を生みだしている。

東北大教養、信州大、静岡大、名大教養、京大、香川大、滋賀大でストライキを含む、全学的な闘争がまきおこっている。

学生の闘いに呼応し、日教組を中心に、「教育大三教授への不当弾圧に反対する会」が組織され、また、「教育・大学の民主化をめざす共闘会議」が新たに発足した。全学連と大学・教育の民主的発展をのぞむ民主勢力との共闘闘争も前進をしてきている。

しかし、大学当局者と政府・文部省は、学生の要求とたたかいに耳をかたむけるどころか、より一層の反動的な攻撃をもって、その回答としてきている。

東教大宮崎一派は、不当処分撤回闘争に対し、三教授への辞職勧告を行ない、拓殖大中曾根当局は、検門体制、通行証制度をもってより攻撃を強化してきた。東大をはじめ各大学で、学生自治活動破壊の策動が加えられてきている。

政府・独占資本の反動的大学再編の攻撃は、二連の行政措置の強化と、モデル大学づくりとして遂行されてきている。しかも、「大学臨時措置法」を強行した坂田文相は、十月九日、「大学基本法」制定の必要を強調してきた。

大学と学生をめぐる情勢は、益々緊迫の度を深め、大学民主化か反動的再編かの対決は重大な局面をむかえている。

佐藤訪米抗議、安保廃棄、沖縄返還、インドシナ人民支援の旗を高くかかげ全人民的闘争へ合流せよ

全都の学友諸君！

十月十四日、社会党、共産党、総評を含む一〇・二一統一行動が実現した。長野、広島、徳島をはじめ全面各地で統一が前進してきている。労働者は、一〇・一七統一ストをたたかい、一〇・二一統一行動に合流しようとしている。

十月二十三日告示される、沖縄「国政参加」選挙で祖国復帰民主勢力を勝利させるうえで、本土の民主勢力に課せられている任務は益々重大になってきている。

政府、独占資本による、人間と自然を破壊にみちびく「公害」絶滅のたたかいは、大きく前進させられなければならない。

しかし、アメリカと日本の反動勢力は、中曾根防衛庁長官の訪米、十八日の佐藤訪米、二十四日の佐藤・ニクソン会談により、日米共同声明路線のより一層の実行にのりだしてきている。そして、アメリカ侵略者は、十一月の雨期あけ、ベトナム人民の総反撃に対し、戦術核兵器の使用を具体的に検討したと伝えられている。

平和と民主主義のために一貫してたたかいつづけてきたわれわれ学生が、佐藤訪米抗議、安保廃棄、沖縄返還、インドシナ三国人民支援の旗を高くかかげ、一〇・二一統一行動に決起しようではないか。

「全共闘」「革マル」一派を一掃し、全学連の旗の下、全国学友は総団結しよう。

早大・法政をはじめ「全共闘」「革マル」一派の自治会破壊や右翼暴力学生の脅迫の下で不屈にたたかいつづけている全都の学友諸君！

学費値上げ阻止を中心とする10、11月闘争を勝利するためには、反動勢力に対する百六十万学友の広大な統一と、ゆるぎない団結、不屈の戦闘性が必要とされる。

テロとリンチで、広範な学友の結集をさまたげ、学友の団結を破壊し学友のたたかうエネルギーを挑発と分裂・破壊の道に導く、「全共闘」「革マル」一派を、すべての学園から、学生運動から一掃しようではないか。

二度と再び、第二の山村君を生みだしてはならない。暴力一掃、学園の民主主義確立のため更に奮闘しよう。

あらゆる妨害と暴力をはねのけ、困難を突破し、一〇・二一統一行動に合流しよう。

首都東京の学友諸君！

日本学生運動の拠点として、つねに全国学友の先頭にたちたたかいつづけてきた首都の学生運動が、一〇・二一統一行動に大きく決起し、政府・文部省にむけての壮大なデモンストレーションを決行しようではないか。

十一月全国一斉ストライキ闘争をもって、学費値上げ阻止、教育予算の大幅増額、私学国庫助成をかちとろう。

全国の大学で、民主化闘争を徹底しておしすすめよう。その力を、政府・文部省の反動的文教政策粉砕にむけ、反動的大学再編阻止にむけ、連帯し統一したたかいへ合流させよう。

一〇・二一東大安田講堂前に総力をあげ結集せよ。

学費値上げ阻止 大学民主化 安保条約廃棄 沖縄返還
公害絶滅 十・二一全国学生中央総決起集会

実施要項

一、日時　十月二十一日　午後一時三十分集会　二時開会
一、場所　東大安田講堂前　一デモ行進　三時出発　東大―御茶ノ水―文部省―新橋
インドシナ三国人民支援・安保条約廃棄・沖縄「国政参加」選挙勝利・生活擁護をめざす十・二一統一行動中央大集会
一、主催団体　日本社会党・日本共産党・総評・中立労連
一、日時　十月二十一日　午後六時集会
一、場所　東京代々木公園　一デモ行進八時出発